

## 沖縄振興交付金事業等の内閣府点検評価結果 (令和7年度 期中点検)

事業名	留意事項
<p>【沖縄県】 沖縄観光コンテンツ開発支援事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源（自然、歴史、文化等）を活用した観光コンテンツの開発は必要不可欠であり、必要性が高い事業である。</li> <li>・新規コンテンツの創出に加え、既存コンテンツの磨き上げや「沖縄らしさ」が重要であり、コト消費・トキ消費などへの対応が求められる。</li> <li>・高補助率でのコンテンツ自走化を実現しているが、より低補助率でも同等の成果を達成可能となるか分析してはどうか。</li> <li>・短期間での評価は難しいため、コンテンツ開発支援件数のみを追うのではなく、事業実施後一定の期間を視野に入れ、成果の追跡調査を事業スキームに組み込む等のフォローアップや観光産業等への寄与度の把握について検討するなど体制の強化にも取り組んでほしい。</li> <li>・観光客が沖縄に求めているものを意識し、ユーザー目線でのコンテンツ開発を検討してほしい。</li> <li>・事業の自走化率向上に向けて、地域の人材育成や継続する事業運営のための仕組みを構築することが必要ではないか。</li> </ul>
<p>【沖縄県】 海外 IT 人材交流育成事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内 IT 企業の海外展開などを促進するために、沖縄と海外を結ぶ人的ネットワークを構築し、産業を振興する事業として、必要性が高い。</li> <li>・IT 人材の技術力の高度化や県内事業者の DX 化の推進等も期待され、県内産業全体の生産性向上にも寄与するものである。</li> <li>・海外との取引拡大を目指す県内 IT 企業のニーズを把握した上で、海外 IT 企業とのマッチング強化に取り組んでほしい。</li> <li>・これまでのノウハウや人的ネットワークの蓄積をもとに、より高い成果指標の設定や、ビジネス創出に対する直接的な成果指標として、交流後のビジネス件数等の経済効果を示す指標も検討してはどうか。</li> <li>・活動目標（人材招聘数、人材派遣数）の実績増減が成果目標（契約件数）にどのように影響するか分析してはどうか。</li> <li>・情報通信関連産業と他産業との連携によるコンテンツの高付加価値化や、IT津梁パーク等既存インフラとの相乗効果が期待される。また、海外企業の立地促進や今後の地域開発計画等との連携も求められる。</li> </ul>
<p>【沖縄県】 持続可能な沖縄型果樹生産技術開発事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術を活用して栽培管理や生産技術を可視化することにより、高品質・高付加価値の果樹の生産技術の伝承につながる必要性の高い事業であり、若年層の就農など後継者が参入しやすい環境整備が期待される。</li> <li>・長期の研究開発事業として計画的・効率的に執行されていると評価できる。</li> <li>・沖縄型の持続的な果樹振興を目指した有効なアプローチであり、研究成果をいかに一般生産者に普及し、活用させていくかが鍵になるのではないか。幅広い個別農業生産者が情報を得られるよう、自治体経由で情報へのアクセスを可能とするなどの工夫が求められる。</li> <li>・栽培技術伝承に向けたデータ蓄積を成果指標としており、事業目的と</li> </ul>

	<p>整合している。また、社会実装に向けた技術の検証・実証試験が予定され、それらがアウトカム指標として設定されており評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな生産者の開拓につなげ、持続可能な果樹栽培モデルを確立できるよう、本事業による栽培技術の容易な共有と生産者の収益との相関が確認できる数値があるとよいのではないかな。</li> </ul>
<p>【沖縄県】 観光人材育成・確保促進事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光はリーディング産業である一方、若者の就業離れや中小零細企業による人材育成の難しさ等が課題であり、本事業の必要性は大きい。</li> <li>・観光産業の発展のため、人材の育成・確保が鍵であり、県内小中学校、高校、大学、専門学校等での観光学習（出前講座）は力を入れるべき。</li> <li>・人材の定着や確保を促進する観点から、県内だけでなく、県外からの人材確保にも努めることで事業の効率性が向上するのではないかな。</li> <li>・就労環境のイメージ向上を目的とした企業研修等の実施のために、就業希望者が増加しない要因を的確に把握することが必要ではないかな。</li> <li>・研修を必要としていても人材不足等で研修に参加させられない企業等のために、アウトリーチ型の研修も検討してはどうか。</li> <li>・研修受講者が観光業界への就職を優先されるインセンティブ制度や、大学と連携したビジネススクールも有効だと考える。</li> <li>・人手不足対策としては、「就労環境のイメージ向上」等のための研修だけではなく、可処分所得を増やす取組みも必要ではないかな。</li> <li>・受講者数だけでなく、業界への就職者数や人材の定着率、スキル向上など、適切なアウトカム指標や検証などについて、中長期的に検討すべきではないかな。</li> <li>・実績値が目標値を大きく上回っており、実態に合わせた目標値設定が必要ではないかな。</li> <li>・ニーズの季節的変動が大きいいため、必要な人材をプールし繁忙期にも安定的に人材確保できる仕組みを検討することも重要。</li> </ul>
<p>【石垣市】 離島保育士確保総合対策事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島外からの招聘や島内在住者の資格取得支援を行うことにより、離島地域における保育人材の確保に資する必要性の高い事業である。</li> <li>・島外からの保育士の移住に係る渡航費や転居費だけでなく、住宅確保や生活支援等も含めた包括的な取組みが必要であり、他の施策とあわせて実施することで事業の効率性が向上するのではないかな。</li> <li>・市内の学校と連携して、生徒児童に保育士という仕事に関心をもってもらうための施策や、石垣市への移住希望者にも本事業を周知するなど保育士の希望者を増やす手立てについても検討してはどうか。</li> <li>・保育士の定着のために、一定期間以上勤務し続けるためのインセンティブ（待遇改善、技術向上を図る仕組みなど）を検討することで、事業の持続可能性の向上につながるのではないかな。</li> <li>・待機児童数は2桁（平成28年度）から0人となっているが、本事業によるものか分析が必要ではないかな。</li> <li>・保育士資格の取得支援だけでなく、既に資格を有している潜在保育士を誘引する方策も検討してほしい。</li> <li>・育成・確保した保育士の定着率など、持続可能性に焦点を当てた指標の設定や、新規保育資格保持者数の推移なども含め、定着率向上のた</li> </ul>

	<p>めの工夫等について検討してはどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労環境に関するアンケート等を実施し、島外保育士の視点からみた事業成果の「見える化」に努めてほしい。</li> </ul>
<p><b>【与那国町】</b> 与那国島特産品アピール力強化事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、特産品の周知や販路拡大を図ることで地域振興や域内産業の育成に資する必要性の高い取組である。</li> <li>・短期的な効果だけではなく、開発された特産品がどの程度販売され、定着したかという視点から、成果目標も含め継続的な確認について検討してはどうか。</li> <li>・顧客満足度等の外部評価的視点が加わるとさらに説得力が高まるのではないか。</li> <li>・開発から販売までの一連の取組を評価指標に設定している点は評価できるが、より高い数値目標を設定されたい。</li> <li>・本事業の最終目的は域内産業育成、域内生産量増加であると思われ、現在の商品開発件数や出展回数とともに、年度毎の域内生産量や就業者数の目標を設定することも検討してはどうか。</li> </ul>

# 沖縄振興交付金事業等の内閣府点検評価結果

(令和7年度 事後評価)

<p>【沖縄県】 ヒト介入試験プラットフォーム構築事業</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 県内大学等を核としたヒト介入試験プラットフォームを構築することにより、沖縄が有する生物資源等を生かし県内健康食品企業等が開発した商品の効果検証を県内で恒常的に実施できる体制を整備するものであり、健康食品分野の競争力強化、新規産業の創出、産学連携による事業化促進等に資する必要性の高い事業である。</li><li>・ 先進地域の事例を踏まえたうえで沖縄県の特性を組み込んだプラットフォームを構築することで、効率性がより高まるのではないかと。</li><li>・ 有効性をより高めるためには、中長期的な視点から企業と大学等との連携強化が必要ではないかと。</li><li>・ 成果指標に設定しているバイオベンチャー企業数と本事業との関係について分析してはどうか。</li><li>・ 本事業の自走化および継続に向けては、県内事業者のニーズ把握や特定研究者への依存型にならないようにすることが課題になるのではないかと。自走化に向けた具体的な収支計画と利用促進策を策定し、プラットフォームの持続可能性を検証する必要があるのではないかと。</li><li>・ 魅力的な研究成果の県外資本による買収によって、育成途中の県内産業の発展が妨げられる事態への対策も重要だと考える。</li></ul>
<p>【宮古島市】 宮古馬利活用スタートアップ事業</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 天然記念物である宮古諸島固有の宮古馬について、種の保存と観光資源としての利活用を両立させる取組であり、文化的・経済的に公共性の高い事業である。放牧場の整備や利活用人材の育成、宮古馬の歴史や魅力発信により、誘客促進や地域振興に寄与するものである。</li><li>・ 持続可能な地域振興を目指す観点で宮古馬に配慮した利活用のあり方を考える必要がある。今後は、スタートアップ段階時の成果指標の数値を基に、合理的かつ持続可能な目標値の設定を検討してはどうか。</li><li>・ 宮古馬保存の持続可能性を確保するために、どの程度の飼育者が育成され技術が向上したかを示す目標の設定を検討してはどうか。</li><li>・ 今後、経済効果や地域ブランド化に関する指標も検討してはどうか。</li><li>・ 地域文化資源の活用に向けたスタートとして好調であり、次の段階では観光商品化や継続的な人材育成体制などが重要である。</li></ul>
<p>【沖縄市】 沖縄こどもの国展示拡充事業</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 県内唯一の本格的動物園である「沖縄こどもの国」において、夜間ライトアップ整備や夜間営業を実施することで、観光客の誘致拡大と来園時間の分散を図るものであり、沖縄県全体の観光振興に資する必要性の高い取組である。</li><li>・ ナイトコンテンツの満足度は高く、また、夜間開園がスタートした令和6年度は、前年度より来園者が10万人以上増えており、費用対効果の観点から事業効率性は一定程度担保されているのではないかと。</li><li>・ 本事業がどの程度来園者の増加につながったか検証することが必要ではないかと。</li><li>・ 本事業を通じて来園者の分散（空間確保）がどの程度実現したか評価する指標を検討してはどうか。</li><li>・ 今後は持続的な運営とコンテンツ更新が重要となるのではないかと。</li></ul>